

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

日 時 平成 23 年 6 月 23 日 (木) 10:00 ~ 10:25

場 所 合同庁舎 4 号館第 3 特別会議室

出席者 阿久津政務官、相澤議員、奥村議員、今榮議員、白石議員、青木議員、泉統括官、
梶田審議官、吉川審議官、大石審議官

議事概要

議題 1 . 平成 24 年度アクションプランについて (パブリックコメント募集案について)

< 大路参事官説明 >

相澤議員 それでは、早速パブリックコメント募集案、資料番号で申しますとイ - 4 です。これをもとにこれから意見交換をさせていただきます。

そこで、このアクションプランのイ - 4 の資料の表紙に書いてありますように、パブリックコメントを募集するにあたっては、最初にアクションプランの狙いがあり、それに続いて 4 つの対象という形でアレンジされております。

そこでまず見開きをご覧いただきたいと思います。

下にページが打ってありますが、2 ページです。アクションプランの狙いです。

これは、これまでも議論してまいりましたように、その内容を簡潔に記載してあります。これはあくまでも予算編成プロセスで進めてきたことであります。そのことを始めにうたっております。このアクションプランは総合科学技術会議が最も重要と考える施策の方向性を概算要求前に示すということを明記してあるわけです。その後、この内容についての幾つかのポイントを指摘してあります。

これに続いて 3 ページから、それぞれの対象について書くわけですが、3 ページのところは 4 つの対象について目指すべき社会の姿、それから政策課題、重点的取組の一覧であります。これで全体がどのような構成になっているかということが理解できるようにしてあるわけです。

それに続いて、5 ページから各対象についての内容が記載されております。

そこで、この順で、各担当の議員の方々から何か特段の説明なり、ご指摘があればということで、この順序でまいります。まず始めに復興再生並びに災害からの安全性の向上ということで、奥村議員から何かコメントはございますでしょうか。

奥村議員 これまでの議論を踏まえまして、この 3 ページ目の上にもまとめてあるような姿にございます。前回ご指摘していただいた放射性物質による影響については、命ということに絞りますとより大きな不安を与える懸念があるということで、政策課題のところを「命・健康」というように変更しているところは前回と大きな違いでございます。

相澤議員　それでは、その次、 ですが、11 ページです。ここはグリーンイノベーションであります。私が担当いたしましたので、少し説明させていただきます。11 ページの内容は、骨子としては変わってないのですけれども、表現ぶりが相当変わっております。

特に、書き出しの部分、第1の paragraph をご覧いただきたいのですが、地球規模の気候変動への対応とエネルギーの安定確保、これは世界でも日本でも喫緊の重要課題になっているということを明記し、特に我が国では原子力の位置づけに大きな見直しを迫られている現状から、持続可能なクリーンエネルギーを確保することが強く求められるようになったとして、ここにクリーンエネルギーという言葉も明記し、そしてこれら、結局3つの課題がありますから、これらの重要課題に対応していくために、我が国の強みである環境・エネルギー科学技術の革新を加速し、グローバル戦略のもとに、グリーンイノベーションを強力に推進するというところで、グリーンイノベーションが狙っていることを明確に記載したところです。

そして、その次の paragraph からはエネルギー供給側の問題、それからエネルギー需要側の問題ということにしてあるわけです。

第4の paragraph のところには、社会インフラのグリーン化に対応するところではありますが、エネルギー関係だけではなく、今回の気候変動ということと同時に、大震災もありまして自然の脅威に対する備え、それからそれらを地域の特性に応じた自然と共生するまちづくりとして進めるということも明確に示してあります。

同時にこれは科学技術の推進だけではなく、社会システム、制度改革を一体的に推進する必要があるという内容であります。このところが大きな内容と表現ぶりの変更であります。

また、グリーンイノベーションというのは、昨年度も実施しているわけですが、ただいまのような構成で相当組み換えが行われているわけです。特に、エネルギー需要側のところの分散エネルギーのシステム、これを創エネルギー、それから蓄エネルギーの技術革新とともに、拡大して展開していかなければいけないということを強く打ち出しております。

それに続く、各セクションでの説明ぶりは前回と基本的には変わっておりません。

それでは、17 ページですが、ライフイノベーション、これは事務局から何かコメントがありましたら。

大路参事官　先週お配りした資料から特段大きな構成とかは変わっておりませんで、細かい文言の修正というのがございますけれども、大きな流れは変わっていないということでございます。

相澤議員　ライフイノベーションは、冒頭にありますように今年度に引き続きということでもありますので、基本的にはその骨格があり、そこにいろいろと加えるべきことが入ってきたということでもあります。

それでは、その次が 23 ページですが、 、基礎研究の振興及び人材育成の強化であります。これも事務局からコメントがあればですが、これも基本的には変わっていないと思いますが、それでよろしいでしょうか。

大路参事官 はい。

相澤議員 それでは、ここの部分も特段の修正はございません。

以上が、内容であります。

それでは、これをパブリックコメントの募集の内容として、本日は皆様のご了承を得たいのですが、その前にご質問、あるいはご意見がありましたらお願いいたします。

青木議員からグリーンイノベーションのところで、エネルギー供給という言葉が使われているけれども、この供給という言葉よりも生産という言葉のほうが適切ではないかというご意見をいただいているのですが、このような流れにしますと供給側と需要側という分け方になりますので、生産というよりも少し幅の広い考え方で供給側という形にさせていただきます。いかがでしょうか。

青木議員 今回、最初のほうに説明が入っているので、大変わかりやすくなりました。誤解がなくなったと思います。どうもありがとうございます。

相澤議員 それでは、阿久津政務官から何か全体についてのコメント等がありましたら。

阿久津政務官 全体ではないのですが、防災のほうをやっておりまして、私も別に担当していますので、復興・再生のところで、この5ページの4行目の死者、行方不明者の数ですが、私の記憶が間違っていなければ、合わせて2万3,000人を切っている気がするので、最新の数字を参照してください。

奥村議員 おっしゃるとおりで、原稿をつくった時点は、ここに書いてありますようにやや前の時点の数字でございまして、その後、新しい情報が出ていますので、ご指摘のように最新の情報に修正させていただきたいと思います。

貴重なご指摘、ありがとうございました。

相澤議員 そうですね。ここのところ、5月末現在というようになっておりますから、できる限り、新しいものに修正していただきたいと思います。

阿久津政務官 あと全体にはよろしいのではないかと思います。

相澤議員 今回のアクションプランのパブリックコメントを求めるこの時期ですが、例年と違いまして、各省が来年度の概算要求の準備体制にまだ入り切れないというところがあります。したがって、総合科学技術会議と意見交換をしているのですが、まだまだいろいろと流動的な状況でありますので、このパブリックコメント募集案の1ページ目の下に四角で囲ってありますように、以下に示した目指すべき社会の姿、政策課題及び重点的取組については、現時点で総合科学技術会議が重要と考える方向性であり、検討中のものである。ということをご付記してあります。

この意味は、各省の具体的な施策をまだ検討し切れてないということもありますので、これから多少のやり取りの中から変更が十分あるというところでもあります。ただ、総合科学技術会議としては、こういう方向性だということをご明記しているというところでもあります。

白石議員 そこはそれで結構ですが、少し気になるのは最初のパラグラフで、アクションプランの狙いということで、平成23年度に引き続きとなっているのですが、実際にはこれは変わったわけですね、性格が。つまり今年度は総合科学技術会議が最も重要と考

える施策の方向性をまさに提示するわけですけれども、昨年度は先行的にやるということで、性格が変わっているということはやはりどこかに書いておいたほうが誤解を生まないのではないかなとは思いますが。

相澤議員 確かに、ご指摘のとおり、2ページ目のアクションプランの狙いの最初の行のところ、説明が必要ですね。ご指摘のとおりだと思います。

それでは、表現ぶりについて工夫させていただきたいと思います。

そのほか、ご指摘、ご意見はございませんでしょうか。

それでは、文章表現上の修正はまだこれからあり得る状況ではございますけれども、基本的な内容はこの資料のイ-4ということで、皆様のご了承を得たいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、この会議としては了承という形になりました。

そこで本日は、阿久津政務官にご出席していただいておりますが、玄葉大臣のご了承も含めて、それらのプロセスを得た上でできれば来週の初めにパブリックコメントを開始するというようにさせていただきたいと思います。

その点についてもご了承していただけますでしょうか。

事務局としては、具体的に来週のいつに始めるという日程でしたでしょうか。

大路参事官 最も順調にいけば、月曜日に開始できるという状況でございますけれども、大臣の了解等のスケジュールもございますので、そのあたりを踏まえて来週のできるだけ早い時期にということで想定したいと思っております。

相澤議員 そして、パブリックコメントの募集期間は1週間ですか。

大路参事官 1週間ということで考えております。

相澤議員 それでは、そのようなプロセスをこれから進めることにいたします。

議題2．内閣府ホームページへの外国研究機関等の支援情報追加について

<大竹参事官説明>

(特に意見等なし)

議題3．その他(米国-英国間の高等教育、科学、イノベーション協力について)

<大竹参事官説明>

阿久津政務官 この宇宙天気の問題ですけれども、我々が想像する以上に世界でいろいろ研究というか、反響というか、関心が高いようでして、私自身も宇宙担当、IT担当であるので、関係分野でもあるので危機感は共有しております。

2000年問題というのが以前にあったと思うのですが、あのとき準備を十分にしていたので、結局何もほとんど起こらなかったということがありました。あのようになればいいなと私は考えておりました、こちらのほうで、科学技術部局になるのでしょうか、これへの対応の体制をつくれればいいというように考えています。基本的には情報収集とか、そういうものが先になりますし、何かこれがもう少し大きな問題になりそうであれば、外務、総務、文科、国交、経産などとも連携をとりながら対応もできると思いますので、受け皿ということを含めてやっていただければありがたいと思います。

泉統括官　今、政務官がおっしゃられましたように、各省にまたがる科学技術の話なので、まずいろいろな情報収集のようなこととか取りまとめということを私どもの部局でやって、こういったところでも必要に応じてご報告しながら、政府全体として対応が図れるように、我々の部局で努めてまいりたいと思います。

相澤議員　それでは、そのような進め方にさせていただきます。

(以上)